

=====

東海生研 ～ メールマガジン 第159号～

特定非営利活動法人東海地域生物系先端技術研究会

=====

\*\*\*\* 《もくじ》 \*\*\*\*

- 1. 東海地域で開催されるセミナー・シンポ・会議等
  - ☆岐阜大学大学院連合獣医学研究科市民公開講座 (3月23日)
  - ☆三重大学生物資源学部 平成29年度第2回環境農林水産フォーラム (3月23日)
  - ☆三重大学伊勢志摩サテライト 第1回シンポジウム (3月25日)
  - ☆中部異業種間リサイクルネットワーク協議会 見学会 (4月19日)
- 2. 地域外でのセミナー・シンポ・会議等
  - ☆農林水産業イノベーションシンポジウム (3月20日)
  - ☆農林水産省等のイベント情報
- 3. 競争的研究資金について
  - ☆平成30年度戦略的プロジェクト研究推進事業 (農林水産技術会議事務局)
  - ☆平成30年度官民連携新技術研究開発事業 (農林水産省 (農村振興局))
  - ☆平成30年度放射性物質測定調査委託事業 (農林水産省：技術会議事務局)
  - ☆平成30年度放射能調査研究委託事業のうち『農林生産環境中における放射性核種の濃度変動の要因と動態の解明』(農林水産省：技術会議事務局)
  - ☆平成30年度水産防疫対策委託事業 (水産動物疾病の診断・予防・蔓延防止に係る技術開発等) (農林水産省：消費・安全局)
  - ☆平成30年度宇宙航空科学技術推進委託費 (文部科学省)
  - ☆研究成果最適展開支援プログラム (A-STEP) ステージ3：
    - NexTEP-A タイプ (JST)
  - ☆産学共同実用化開発事業
    - NexTEP 平成29年度未来創造ベンチャータイプ (JST)
  - ☆産学共同実用化開発事業 NexTEP 平成29年度一般タイプ (JST)
  - ☆平成30年度大学発新産業創出プログラム
    - (START) プログラム支援型 (JST)
  - ☆平成29年度 ICT イノベーション創出チャレンジプログラム (総務省)
  - ☆民間の競争的研究資金
- 4. 新技術情報について

\*\*\*\*\*

---

◆ 1 ◆ 東海地域で開催されるセミナー・シンポ・会議等

☆岐阜大学大学院連合獣医学研究科 市民公開講座「ミツバチと病気」

【開催日時】平成30年3月23日（金）14：00～17：00

【開催場所】岐阜大学サテライトキャンパス（岐阜スカイウイング37東棟4階）

【主催】岐阜大学大学院連合獣医学研究科

【内容】

- ・ミツバチの病菌の伝播 岐阜大学応用生物科学部教授 土田浩治 氏
- ・アメリカ腐蛆病とヨーロッパ腐蛆病  
埼玉県農林畜産部安全課主査・連合獣医学研究科修了生 荒井理恵 氏
- ・蜂蜜と幼児ボツリヌス症  
東京農業大学教授・元連合獣医学研究科客員教授・  
元厚生労働省国立医薬品食品衛生研究所食品衛生管理部長 五十君静信 氏

【案内リーフレット】 <https://www1.gifu-u.ac.jp/~ugvphdhp/news2017/kouen20180323.html>

【参加】参加費無料、事前登録不要

☆平成29年度第2回環境農林水産フォーラム （三重大学生物資源学研究科）  
～生物資源学部創設30周年を迎えて～

【開催日時】平成30年3月23日（金）13：30～16：00（受付13時～）

【開催場所】三重大学 環境・情報科学館 3階 PBL 演習室

【主催】三重大学大学院生物資源学研究科・教育研究推進センター

【プログラム】

13：30 ご挨拶と学部・研究科紹介 生物資源学研究科長／梅川 逸人 氏  
シンポジウム開始 司会 社会連携推進室長／田丸 浩 氏

13：50 「わたしの履歴書」  
三重県企業庁／大学第30回農学科農業経営学コース／山神 秀次 氏

14：20 「低温一筋」  
ABE 技術士事務所／県立大第5回水産製造学科／阿部万寿雄 氏  
(休憩)

15：00 「海とともに生きて」  
三重大学／県立大第19回水産増殖学科／前川 行幸 氏

15：30 「ポスター展示（学科紹介など）」

15：45 全体討論（将来展望など）

16：00 終了の挨拶 地域連携推進室長／酒井 俊典 氏

【実施要領】平成29年度第2回環境農林水産フォーラム

【対象】関連の企業・団体、一般の方

【参加申込み】上記実施要領にある参加申込書に必要事項を記入し、ファックスまたはメールにて、3月16日（金）までお願いいたします。

FAX：059-231-9634

E-mail：件名に「フォーラムの申込」とご記入下さい。

renkei@bio.mie-u.ac.jp

【お問合せ】 三重大学大学院生物資源学研究科チーム総務担当（羽津本）

TEL：059-231-9502 FAX：059-231-9634 E-mail：renkei@bio.mie-u.ac.jp

.....  
☆三重大学伊勢志摩サテライト 第1回シンポジウム

【開催日時】 平成30年3月25日（日）13：30～17：00

【開催場所】 海の博物館（鳥羽市浦村町大吉1731-68）

【対象】 三重大学の教育研究活動にご興味のある方

【開催内容】

◎三重大学の活動紹介

・「海女さんはすごい！—海女研究の魅力と可能性—」

人文学部 教授・塚本 明 氏

・「伊勢志摩の地域創生と海洋生物資源研究の果たすべき役割」

生物資源学研究科 教授・吉松 隆夫 氏

・「小学校における郷土教育の実践」

教育学部 教授・荻原 彰 氏

・「伊勢志摩国立公園と景観計画—景観まちづくりと地域再生—」

工学研究科 准教授・浅野 聡 氏

・「地域人材の育成を通じた地域創生への取り組み 南伊勢町の事例」

地域イノベーション学研究科 教授・西村 訓弘 氏

◎意見交換：伊勢志摩サテライトに要望すること

【チラシ】 <http://www.mie-u.ac.jp/topics/events/item/adaf441bd938fdd15b56c40d8655f860.pdf>

【参加費】 無料

【申込方法】 申込書に必要事項をご記入の上、FAX（059-231-5722）又はE-mailにて  
申込書の内容を info@crc.mie-u.ac.jp までお送りください。

申込みの締切りは3月20日（火）

【お問い合わせ先】 国立大学法人三重大学地域イノベーション推進機構地域戦略センター

TEL：059-231-9763 FAX：059-231-5722 E-mail：info@crc.mie-u.ac.jp

.....  
☆中部異業種間リサイクルネットワーク協議会 ～豊橋市バイオガス発電見学会～

【見学先】 豊橋市上下水道局：

中島処理場・豊橋市バイオマス資源利活用施設整備・運営事業

【開催日時】 平成30年4月19日（木）14：00～16：30

【集合場所】 JR 東海道本線豊橋駅改札出口 13時 40分に出発

（アクセス：改札集合後、東口1階タクシー乗場から～約20分）

【講演】 14：00～15：00

「小規模普及型バイオガス発電システムの開発と今後の展開」

豊橋技術科学大学 環境・生命工学系 特任准教授 熱田 洋一 氏

【見学】 15:10～16:30

[1]バイオマス利活用センター [2]中島処理場水処理

【参加】 定員 30名 会員優先。 申込締切 3月22日(木)

定員があれば会員外も募集

参加費 無料

但し、豊橋駅からの交通費(タクシー往復など)は、各自折半で負担。

【懇親会】 17:20 三三九(札木/居酒屋) 予定。 参加費 3,000円(予定)

(愛知県豊橋市呉服町75番地 電話:0532-53-0339)

定員 とりあえず20名

4月12日(木)以降の懇親会追加、キャンセルはできません。

◆2◆ 地域外でのセミナー・シンポ・会議等

☆農林水産業イノベーションシンポジウム

(農林水産省)

【開催日時】 平成30年3月20日(火) 13時30分～16時45分

【開催場所】 農林水産省本館7階講堂(東京都千代田区霞が関1-2-1)

【講演】

(1)挨拶

(2)特別講演:「ゲノム編集で世界の胃袋を満たす」

京都大学大学院農学研究科助教 木下政人 氏

(3)「ここまで進んだ現場での最新技術」

・「ドラえもんの世界が農業にやってくる」

慶應義塾大学理工学部システムデザイン工学科助教 野崎 貴裕 氏

・「森林(もり)と共に。革新的林業機械で支える林業生産」

イワフジ工業株式会社開発担当取締役 川崎 知資 氏

・「ロボット×ICTで切り拓く未来の水田農業」

上士別IT農業研究会会長、水留農場代表 水留 良一 氏

・「地域を守る!先端技術と地域の力を合わせた鳥獣害対策」

兵庫県立大学自然・環境科学研究所教授 山端 直人 氏

(4)政府における科学技術振興の動き

農林水産省農林水産技術会議事務局研究総務官 菱沼義久 氏

(5)農林水産技術会議委員と講演者との意見交換

【参加申込】 申込締切 3月13日(火) 17時。参加申込要領は下記の「詳細」参照

【詳細】 <http://www.biotech-tokai.jp/archives/1943>

○農林水産技術会議事務局筑波産学連携支援センターが開催するセミナー等の情報は、下記のURLの通りです。

<http://www.affrc.maff.go.jp/tsukuba/top/>

○国立研究開発法人農研機構が開催するイベント情報のURLは下記の通りです。

<http://www.naro.affrc.go.jp/event/index.html>

○公益社団法人農林水産・食品産業技術振興協会が開催するイベント情報のURLは下記の通りです。

<http://www.jataff.jp/>

◆ 3 ◆ 平成29～30年度競争的研究資金等について

☆平成30年度戦略的プロジェクト研究推進事業 (農林水産省：技術会議事務局)

<http://www.affrc.maff.go.jp/docs/press/180201.html>

分野等：

1. 現場ニーズ対応型研究
  - 1) 青果用かんしょの省力機械移植栽培体系の確立
  - 2) 茶葉の低温保管システムの開発と作期拡大を可能とする新品種の育成
  - 3) ドローンやほ場設置型気象データセンサー等センシング技術を活用した栽培管理効率化・安定生産技術の開発
  - 4) 総合的な悪臭低減、臭気拡散防止技術の開発
  - 5) 成長に優れた苗木を活用した施業モデルの開発
  - 6) クロマグロ養殖の人工種苗への転換促進のための早期採卵・人工種苗育成技術や低環境負荷養殖技術の開発
  - 7) 有害化学物質・微生物の動態解明によるリスク管理技術の開発
  - 8) 家畜の伝染病の国内侵入と野生動物由来リスクの管理技術の開発
  - 9) 国際連携による農業分野における温室効果ガス削減技術の開発
  - 10) ドローン等を活用した農地・作物情報の広域収集・可視化及び利活用技術の開発
2. 基礎的・先導的研究
  - 11) AIを活用した食品における効率的な生産流通に向けた研究開発
  - 12) 民間事業者等の種苗開発を支える「スマート育種システム」の開発
  - 13) 海外植物遺伝資源の民間等への提供促進

公募期間：平成30年2月1日～3月22日

☆平成30年度官民連携新技術研究開発事業 (農林水産省：農村振興局)

[http://www.maff.go.jp/j/supply/hozyo/nousin/180126\\_1.html](http://www.maff.go.jp/j/supply/hozyo/nousin/180126_1.html)

分野等：

1. 農地の大区画化・汎用化に資する技術
2. 農業水利施設の長寿命化とライフサイクルコストの低減を図るための適切な保全管理に資する技術
3. 土地改良施設の耐震強化等に資する技術
4. 小水力発電等の農業水利施設等を活用した再生可能エネルギーの導入促進に資する技術

5. 農業収益力向上に資する先進的な基盤整備に係る技術

公募期間：平成30年1月26日～3月30日

.....  
☆平成30年度放射性物質測定調査委託事業 (農林水産省：技術会議事務局)

[http://www.maff.go.jp/j/supply/itaku/kenkyu\\_kaihatu/180223\\_1.html](http://www.maff.go.jp/j/supply/itaku/kenkyu_kaihatu/180223_1.html)

分野等：福島県及びその周辺における農畜産物及び土壌の放射能汚染レベルの動向把握

公募期間：平成30年2月23日～4月6日

.....  
☆平成30年度放射能調査研究委託事業のうち「農林生産環境中における放射性核種の濃度変動の要因と動態の解明」 (農林水産省：技術会議事務局)

[http://www.maff.go.jp/j/supply/itaku/kenkyu\\_kaihatu/180223\\_2.html](http://www.maff.go.jp/j/supply/itaku/kenkyu_kaihatu/180223_2.html)

分野等：農林生産環境中における放射性核種の濃度変動の要因と動態の解明

公募期間：平成30年2月23日～4月6日

.....  
☆平成30年度水産防疫対策委託事業 (水産動物疾病の診断・予防・蔓延防止に係る技術開発等) (農林水産省：消費・安全局)

[http://www.maff.go.jp/supply/itaku/kenkyu\\_kaihatu/180307\\_2.html](http://www.maff.go.jp/supply/itaku/kenkyu_kaihatu/180307_2.html)

分野等：

1. 水産動物疾病等緊急対策
2. 水産防疫資材の開発促進のための基礎的な知見の収集
3. 水産動物疾病検査法開発
4. 養殖衛生管理に関する調査・研究

公募期間：平成30年3月7日～4月11日

.....  
☆平成30年度宇宙航空科学技術推進委託費 (文部科学省)

[http://www.mext.go.jp/b\\_menu/boshu/detail/1401208.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/boshu/detail/1401208.htm)

分野等：宇宙利用技術創出プログラム (衛星から得られたデータ等の宇宙科学技術を活用し、異分野シーズとの融合による新たな宇宙利用技術に関する研究開発を行うことにより、環境、農業・漁業、防災、スポーツ、地理空間等の様々な分野における実用化につながる、新たな価値を提供する技術の創出を目指す) 等。

公募期間：平成30年2月16日～4月16日

.....  
☆研究成果最適展開支援プログラム (A-STEP) ステージ3：NexTEP-タイプ (JST)

<http://www.jst.go.jp/a-step/koubo/h29nextep-a-1.html>

分野等：大学等の研究成果に基づくシーズを用いた、企業等が行う開発リスクを伴う規模の大きい開発を支援し、実用化を後押しすることで、大学等の研究成果の企業化を目指す。

公募期間：平成30年3月30日 (第3回締切)

.....  
☆産学共同実用化開発事業 NexTEP 平成29年度未来創造ベンチャータイプ (JST)

[http://www.jst.go.jp/jitsuyoka/bosyu\\_mirai01.html](http://www.jst.go.jp/jitsuyoka/bosyu_mirai01.html)

分野等：大学等の研究成果に基づくシーズを用いた、企業等が行う開発リスクを伴う規模の大きい開発のうち、ベンチャー企業が行う未来の産業創造に向けたインパクトの大きい開発を支援し、実用化を後押しすることで、大学等の研究成果の企業化を目指す。

公募期間：平成30年3月30日（第3回締切）

.....  
☆産学共同実用化開発事業 NexTEP 平成29年度一般タイプ (JST)

[http://www.jst.go.jp/jitsuyoka/bosyu\\_ippan01.html](http://www.jst.go.jp/jitsuyoka/bosyu_ippan01.html)

分野等：大学等の研究成果に基づくシーズを用いた、企業等が行う開発リスクを伴う規模の大きい開発を支援し、実用化を後押しすることで、大学等の研究成果の企業化を目指す。

公募期間：平成30年3月30日（第3回締切）

.....  
☆平成29年度ICTイノベーション創出チャレンジプログラム(I-Challenge!) (総務省)

[http://www.soumu.go.jp/menu\\_news/s-news/01tsushin03\\_02000206.html](http://www.soumu.go.jp/menu_news/s-news/01tsushin03_02000206.html)

分野等：情報通信審議会最終答申において、「2030年に求められるサービス像」を実現するために必要となる「国が取り組むべき技術開発分野と具体的プロジェクト」として、次の7つの具体的プロジェクトが例示されている。

- (1) いつでもどこでも快適ネットワーク技術
- (2) G空間高度利活用基盤技術 (Tokyo 3D Mapping)
- (3) 以心伝心ICTサービス基盤
- (4) フレンドリーICTサービス技術
- (5) 社会インフラ維持管理サービス技術
- (6) レジリエント向上ICTサービス技術
- (7) 車の自動走行支援基盤技術

本事業の公募対象となるのは、上記7つのプロジェクトに該当する課題をはじめ幅広くICTそのものの技術や、農業、医療、交通、教育などの異分野とICTとの融合を図るなどにより、社会へ大きなインパクトをもたらす可能性を持つ、革新的な技術やアイデアを活用した新事業の創出を目指し、概念検証に取り組む技術開発課題。

公募期間：平成29年4月4日～平成30年3月30日

.....  
<民間の競争的研究資金>

当研究会のホームページに掲載した公募情報からご覧ください（下記のURL）。

「農林水産・食品分野の公募情報」：<http://www.biotech-tokai.jp/news/public>

#### ◆ 4 ◆ 新技術情報について

##### ☆水田作関係

##### ○ ICT による水田の自動給排水栓を開発 ―スマホでらくらく・かしこく水管理―

国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構（以下「農研機構」という。）は、水田の水管理をスマートフォンや PC でモニタリングしながら遠隔操作したり、自動で給水と排水を制御できる国内初のシステムを開発しました。水管理労力の大幅な削減により、大規模農家の更なる規模拡大や余剰労力を活かした六次産業化への取組に貢献し、所得向上が期待されます。

・農林水産省十大ニュース：

「ICT による水田の自動給排水栓を開発 ―スマホでらくらく・かしこく水管理―」

<http://www.affrc.maff.go.jp/docs/press/attach/pdf/171220-2.pdf>

・農研機構 HP：

「田んぼの水管理を ICT で遠隔操作・自動制御」

[http://www.naro.affrc.go.jp/publicity\\_report/press/laboratory/nire/076704.html](http://www.naro.affrc.go.jp/publicity_report/press/laboratory/nire/076704.html)

##### ○自動運転田植機を開発 ―田植作業の大幅省力化に期待！！―

農研機構は、初心者でも熟練並みの田植え作業が可能な自動運転田植機を開発しました。独自開発の操舵システムにより、高速旋回と高精度直進作業を実現しました。農繁期に必要な人員を削減可能で、営農規模の拡大に寄与することが期待されます。

・農研機構 HP：（研究成果）自動運転田植機を開発

[http://www.naro.affrc.go.jp/publicity\\_report/press/laboratory/iam/075850.html](http://www.naro.affrc.go.jp/publicity_report/press/laboratory/iam/075850.html)

・・

##### 編集後記

2 月の厳しかった寒さも峠を越し、梅の花が咲き、日中の日差しも暖かくなってきました。昨日、ナナホシテントウムシが陽だまりを歩き回っているのに出会いました。

平昌オリンピックが終わりましたが、日本選手団はこれまでの最多のメダルを取り、テレビ画面を通じて多くの感動を与えてくれました。3 月 9 日にはパラリンピックが開幕し、とても真似のできない素晴らしい競技に感動し、励まされます。

オリンピック・パラリンピックで繰り広げられる夢のような世界の一方、現実社会では、オリンピックを契機として、米朝首脳会議が開催されそうな状況となり、一触即発の状況からひとまず解放されそうです。今後、核の放棄と緊張緩和へと進むことを期待したいものです。

ところで、最近読んだ本に、牧野知弘著「2040 年 全ビジネスモデル消滅」（文春新書、



2016年12月発行)があります。著者は、ボストン・コンサルティンググループを経て、三井不動産に勤務し、現在は起業して、ホテルや不動産開発・運用アドバイザー等の仕事をしています。このような経歴から、米国発の異なるビジネスモデルに依拠する著名企業、「日本マクドナルド」と「東京ディズニーランド」の日本進出から現在までの運営、事業業績の分析をしています。「日本マクドナルド」は日本の高度成長期にあつては米国文化である牛肉ハンバーグを日本国民に「量的充足」させながら展開を図り業績を伸ばしてきました。しかし、バブルがはじけるや低価格路線に切り替え、店舗数の拡大、直営店方式からフランチャイズ方式への転換など、当面の収益を上げる形で凌いできたが、今やハンバーガーはコモディティー化(ありふれた商品化)してしまい、マクドナルド型ビジネスモデルは役割を終えたとしています。一方、「ディズニーランド」型ビジネスモデルは、ひたすら1か所に留まり、人々に夢を与え喜ばせるためのアトラクション等の質の向上・価値の創造に努め、バブル崩壊後も入園料を下げることなく、むしろ上げて質向上のための投資に向けてきました。著者は、このような質の創造で勝負するビジネスモデルによる成功を評価しています。著者の専門分野である不動産販売においても、大量のニュータウン等を供給してきた量的充足の時代は終わり、今は不動産購入者の多様な質的充足を求める動きに的確に対応することが必要となっているとしています。このようなことは様々な分野の業種でも言えることと思われまゝ。著者は、更に先を見据えて、少子高齢化と所得格差が一層拡大し、富裕層が一握りしかいなくなるような社会においては、「ディズニーランド」型ビジネスモデルは楽しむ人が減少し破綻すると喝破しています。本メールマガジンの先月号の「本の紹介」で2042年問題を取り上げましたが、本書では、その頃には「全ビジネスモデル」が成り立たなくなると述べています。

企業経営にとっては、20年後の企業存続の方法、生き延びる戦略の策定は、それ程先の問題ではないと思われまゝ。そういう意味で、本書は近未来の問題提起の一冊と言えると思われまゝ。

===== 《メールマガジンに関するお問い合わせは》 =====

特定非営利活動法人東海地域生物系先端技術研究会 松井・道村

TEL&FAX : 052-789-4586

E-mail : bio-npo2\*y4.dion.ne.jp (\*を@に書き換えてください)

URL <http://www.biotech-tokai.jp/>